

緑内障の新しい診断方法と 新しい治療デバイス

日時 平成26年11月14日(金) 7:45-8:45

会場 第11会場(神戸国際展示場 1号館2F 展示室2A)



座長 **新家 眞** 先生(関東中央病院)

視神経乳頭中心を正確に決定する事は、CpRNFLT 測定による緑内障の診断・経過観察にとって極めて重要であることは論をまたない。その為には視神経乳頭マージンの正確な決定が不可欠な訳であるが、最近網膜神経節細胞のAxonが眼球から離れる開窓部としての視神経乳頭の真のマージンは眼底写真上で決定されるそれではなく、SD-OCT によってのみ臨床的可視化が可能な Bruch membrane opening (BMO) であるという説が有力となってきている。現在临床上使用可能な全ての SD-OCT でBMOの正確な同定が可能な訳ではなく、又BMOを視神経乳頭の真のマージンとすることにより、緑内障の臨床はかなり変わらざるを得ない事が予想される。その点に付き先ず大久保先生にお話しいただくこととした。

最近2種類のプレート付き Glaucoma Drainage Device (GDD) が本邦でも使用可能となった。このバルベルト緑内障インプラントとアーメド緑内障バルブに関しては、海外では既に複数の前向き両者の比較試験の結果が発表されている。しかし本邦人でのこれらGDDの使用経験は未だ十分でないというのが現状であり、解剖学的な違い等より海外での結果がそのまま本邦人に当てはまるとは限らない。本日のモーニングセミナーの第2部としては谷戸先生にアーメド緑内障バルブの使用経験についてお話しいただくこととした。

本日のセミナーが諸賢の緑内障の診断と手術治療にお役にたてれば幸いである。



演者 **大久保 真司** 先生(金沢大学)

Bruch's Membrane Opening (BMO) を基本とした
新しい緑内障解析



演者 **谷戸 正樹** 先生(松江赤十字病院)

アーメド緑内障バルブの使用経験

